

## 水道用コンセント シンプレット ..... V9652ALU-1

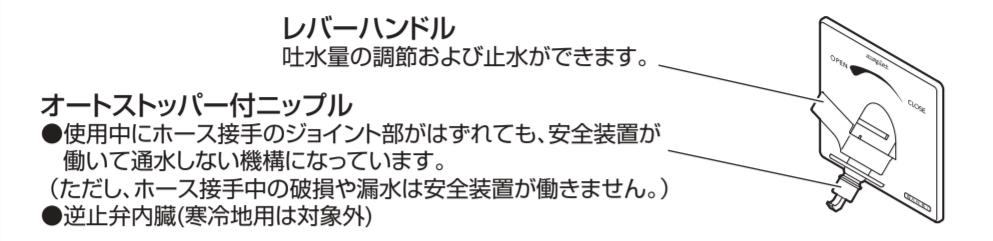
## 施工説明書

施工の前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。

※ 本製品は、寒冷地仕様ではありません。

- お客様へ…お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。
- 工時店様へ…施工後、この説明書をお客様へお渡しください。

## 本製品について 各部の名称



## 施工について 施工に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、試験運転を行いつまらない事象を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの方を説明してください。
- 施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行ってください。

## 用語および記号の説明

<b>警告</b>	「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じる事が想定されます。」
<b>注意</b>	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
<b>△</b>	「注意しなさい!」上記の「警告」・「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。)

## △ 警告

- 電気のコンセントの近くに取付けないでください。  
水道用コンセントからの水により漏電し、感電するおそれがあります。

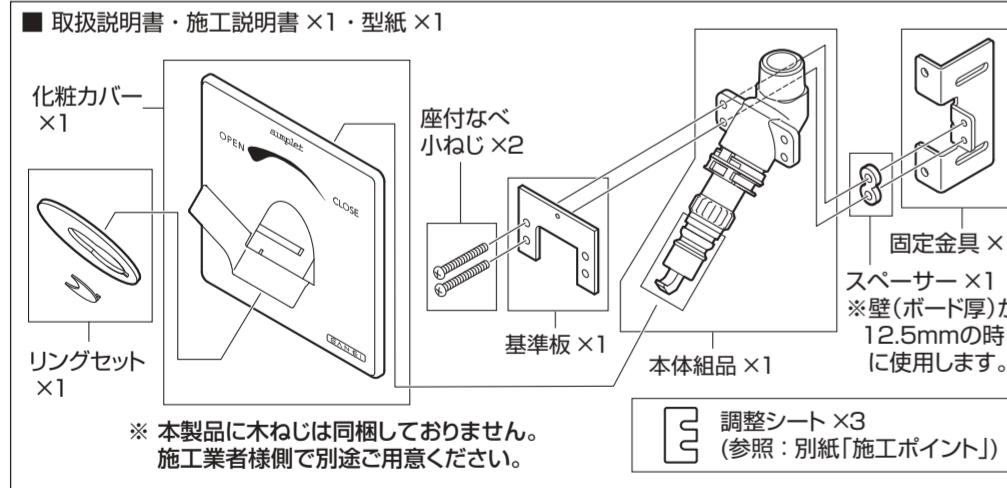
## △ 注意

<b>△</b>	修理技術者以外の人は、水栓本体内部を分解しないでください。 故障や水漏れの原因になります。
<b>△</b>	凍結が予想される地域には使用しないでください。 凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
<b>△</b>	製品に強い力や衝撃を与えないでください。 故障や水漏れの原因になります。
<b>△</b>	凍結が予想される地域には、取付けないでください。 凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

## 施工について 適切な使用条件

(水圧について)	給水圧力 最低必要水圧(流動時) 0.05MPa 最高使用水圧(静止時) 0.75MPa
●給水圧が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2~0.3MPa程度に減圧してください。	
(水質・用途について)	(温度について)
使用可能水質 水道水及び飲用可能な井戸水	使用温度 常温(20°C±15°C)
用途 一般住宅用	●ただし、凍結のおそれがある地域には取付けないでください。

## 施工について 梱包明細



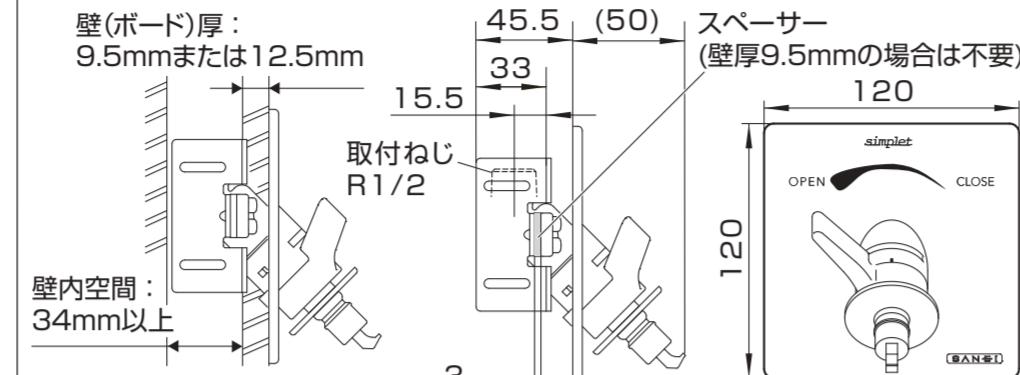
## 施工について ホース接手の適合について

① 自動洗濯機ご使用の場合 日本電機工業会規格(JEM1206)に適合するホース接手をご使用ください。 弊社製品では、下記の品番が該当します。 自動洗濯機給水ホース SANEI品番: PT17-1-0.5 (長さ0.5M) PT17-1-2 (長さ2M) PT17-1-1 (長さ1M) PT17-1-3 (長さ3M) PT17-1-1.5 (長さ1.5M) PT17-1-5 (長さ5M)	② 2端子式ホース接手のない場合 PT17-4Fをご使用ください。 ニップル式で直接ホースを接続して使用しないでください。
△ 注意 自動洗濯機給水ホース以外でご使用の場合、常にホースに圧力がかかる機器には使用しないでください。 ホースが抜けた場合に家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	適合ホース: 内径φ12~15mm 外径φ18~20mm お使いの給水ホース ホースナット付ジョイント SANEI品番: PT17-4F 養生キャップ △ 注意 自動洗濯機給水ホース以外でご使用の場合、常にホースに圧力がかかる機器には使用しないでください。 ホースが抜けた場合に家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

## 施工について 施工手順

- 水道工事と壁面取付工事は相互の工程を十分打合わせてから行ってください。
- 新築時に取付け用の水道用コンセントです。取付けには木枠組が必要な場合があります。
- 取付け時に柱と平行になるよう注意して取付けてください。
- 施工・作動点検のため、ホース接手を用意してください。
- 取付け前に必ず通水し、配管内のゴミを洗い流してください。

## 1 取付位置の確認



## △ 注意

- 対応壁(ボード厚)は9.5mmまたは12.5mmに対応しています。  
9.5mmまたは12.5mm以外の壁(ボード)には取付けできません。
- 壁内空間は34mm以上確保してください。
- 固定金具が固定できるように間柱の近くに取付けてください。
- 軽量鉄骨など強度の弱い所への取付けの際は、補強材を用いるなどして充分な強度を保った上で、固定金具を取付けてください。

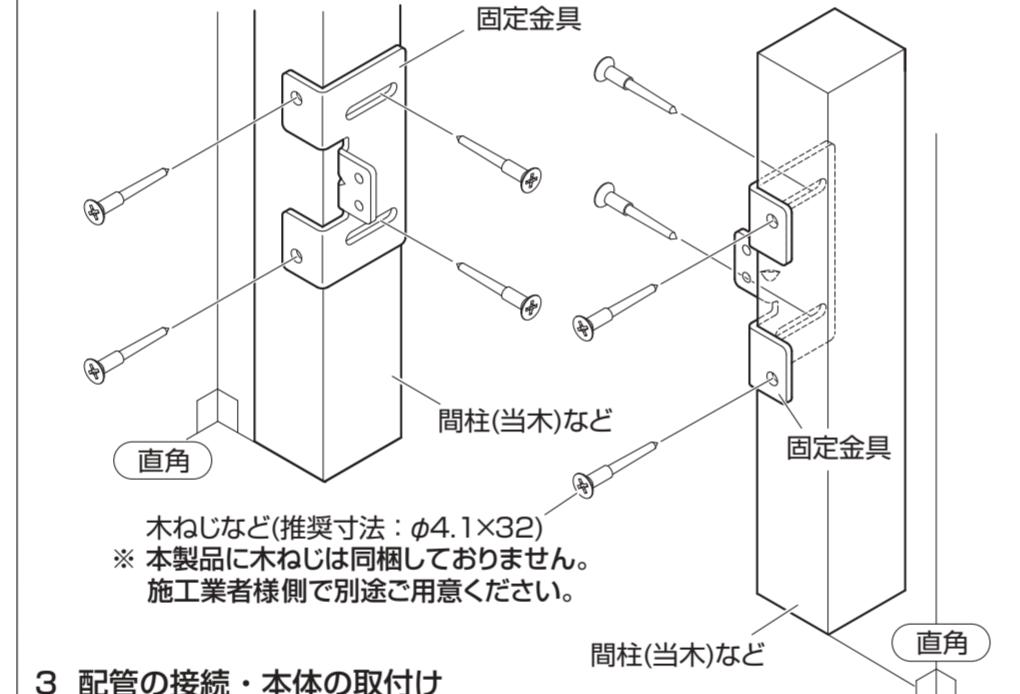
## 2 固定金具の取付け

取付位置に合わせて間柱(当木)などを設け、木ねじなどを用いて確実に固定してください。  
取付け際は、下記のねじ取付位置を参考に、2面以上で確実に固定してください。

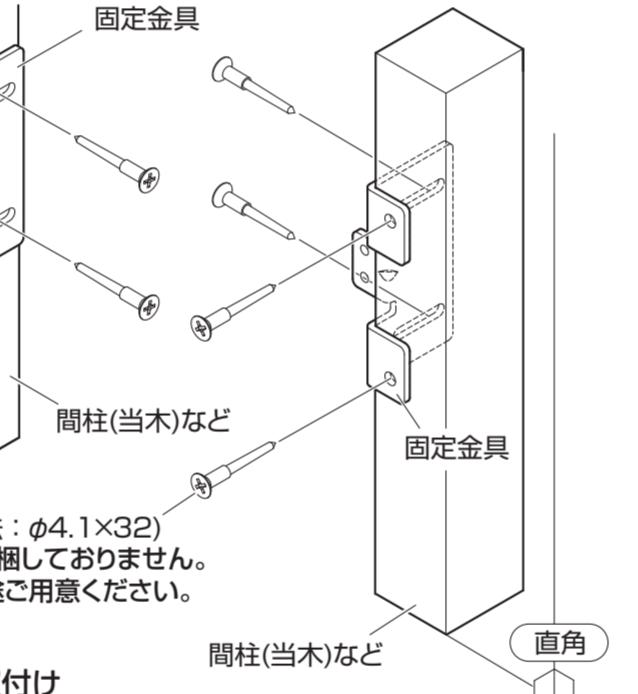
## △ 注意

- 間柱(当木)と固定金具はすき間なく固定してください。  
すき間があつたり、傾いていると、製品が正しく取付けできません。

## ■左固定の場合



## ■右固定の場合



## 3 配管の接続・本体の取付け

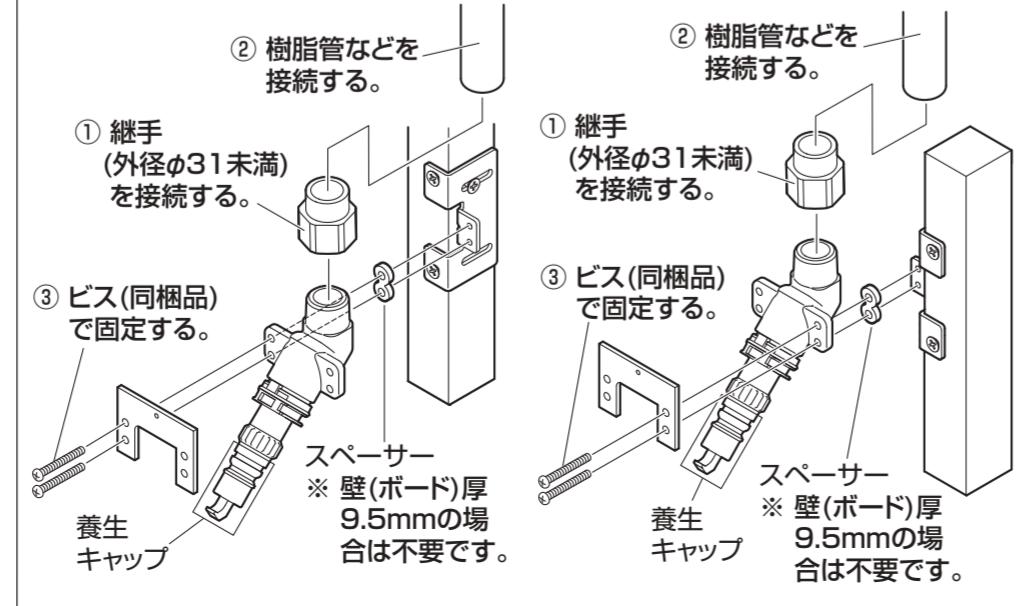
配管の接続を行い、固定金具に本体組品を取付けてください。

- 本体組品に継手(外径φ31未満)を接続してください。  
※接続部にはシールテープを巻いてください。
- 継手に樹脂管などを接続してください。
- ビス(同梱品)を用いて、基準板及び本体組品を固定金具に取付けてください。  
※ 壁(ボード)厚が12.5mmの場合は、スペーザーをはさんでください。

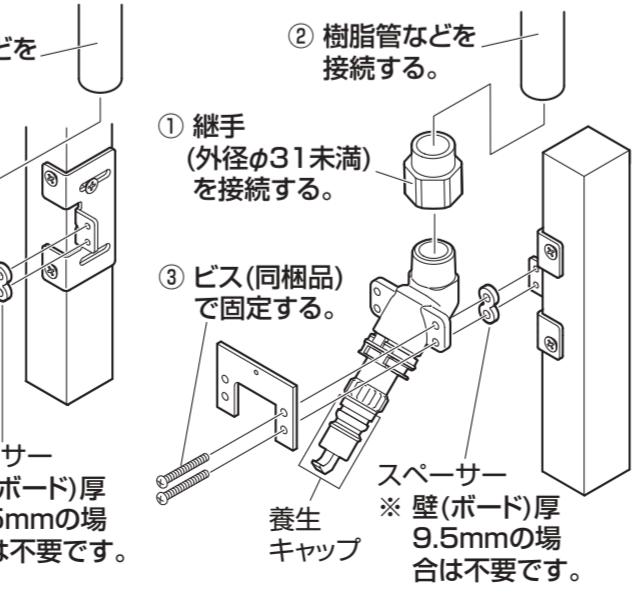
## △ 注意

- 継手は外径φ31未満のものをご使用ください。
- 本体の先端に付いている養生キャップは、通水点検時まではずさないでください。
- 基準板が変形すると正しい基準がとれなくなるため、変形に注意して取付けてください。

## ■左固定の場合



## ■右固定の場合

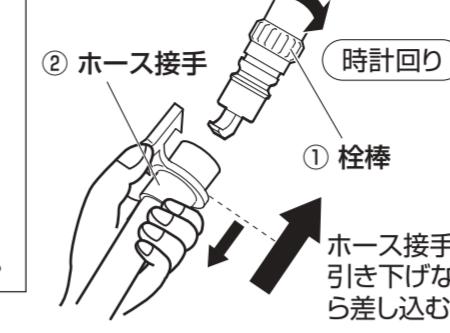


## 4 耐圧検査

本体組品の栓棒部分を手で時計回り(吐水→止水)にあたりまで回します。  
ホース接手などを接続してから、各接合部の水漏れを点検してください。

## △ 注意

- 通水の際は、必ずホース接手などを接続してください。  
そのまま通水すると、オートストップバーが作動します。
- 養生キャップは点検の際にははずし、点検後に再度取付けてください。
- ホースをはずす際は、ホース内の水が出ますので注意してください。



## 5 壁(ボード)の取付け

別紙「施工ポイント」を参照し、壁(ボード)に穴を開け、固定してください。

参照:「施工ポイント A」

## △ 注意

- 型紙より大きな穴を開けると、正しく施工できなくなりますので、十分確認の上施工してください。
- 壁(ボード)を取付ける際、壁(ボード)と本体組品が接触しないよう注意してください。  
破損や水漏れの原因になります。

## 6 化粧カバーの取付け

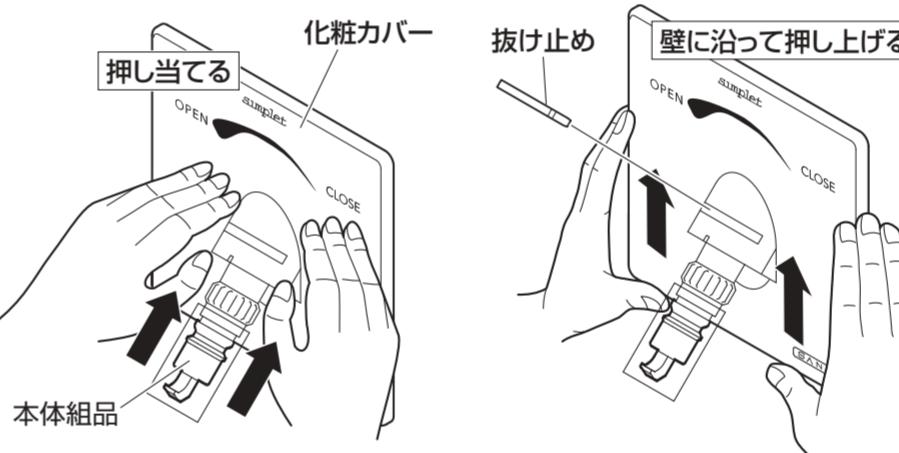
- 化粧カバーからレバーハンドル・抜け止めをはずしてください。

中から指で押し上げる

## △ 注意

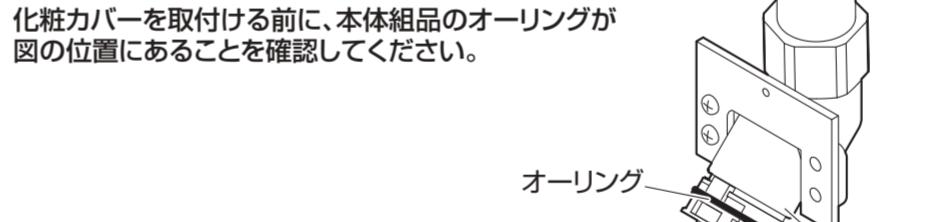
- 抜け止めをはずす際、部品をなくさないようにご注意ください。

- 化粧カバーを本体組品にはめ込み、化粧カバーと壁とのすき間がなくなるまで押し当てます。  
化粧カバーを押し上げながら、抜け止めを取付けてください。



## △ 注意

- 化粧カバーを取付ける前に、本体組品のオーリングが図の位置にあることを確認してください。



## △ 注意

- 抜け止めは、本体組品の溝にはまるよう取付けてください。

- 化粧カバーを壁に押し当てる際、壁と化粧カバーの間にすき間がないことを確認してください。  
すき間がある場合、壁(ボード)厚が間違っている可能性があります。  
この場合、正しく施工できません。

※ 次の場合は、別紙「施工ポイント」を参照ください。

## ●抜け止めを取付けることができない。

- 化粧カバーの穴と本体組品の溝を合わせる。参照:「施工ポイント B」
- 調整シート(同梱品)をはさむ。参照:「施工ポイント C」

## ●化粧カバーが水平でない。

- 本体組品のズレを直す。参照:「施工ポイント D」

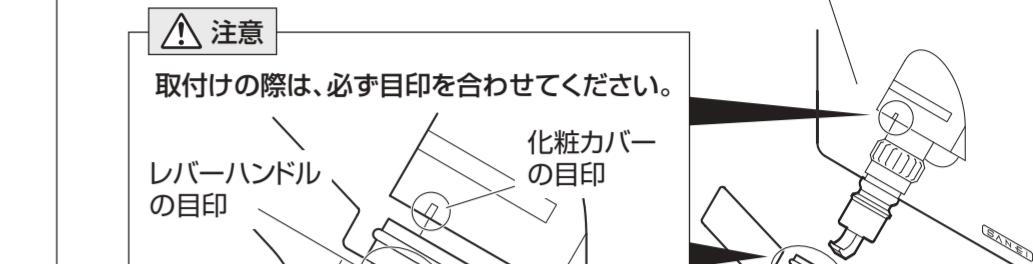
- 取付け後、化粧カバーを引っ張って確実に取付けられているか確認してください。

## 7 レバーハンドルの取付け

- 元栓を閉めてから、本体組品の栓棒部分を手で反時計回り(止水→吐水)にあたりまで回してください。

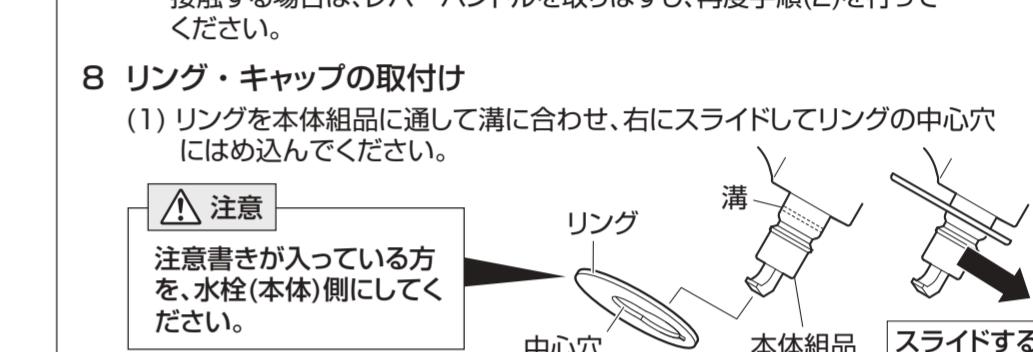


- 養生キャップをはずし、化粧カバーの目印とレバーハンドルの目印を合わせ、レバーハンドルを取付けてください。



## 8 リング・キャップの取付け

- リングを本体組品に通して溝に合わせ、右にスライドしてリングの中心穴にはめ込んでください。



## 9 施工・作動点検

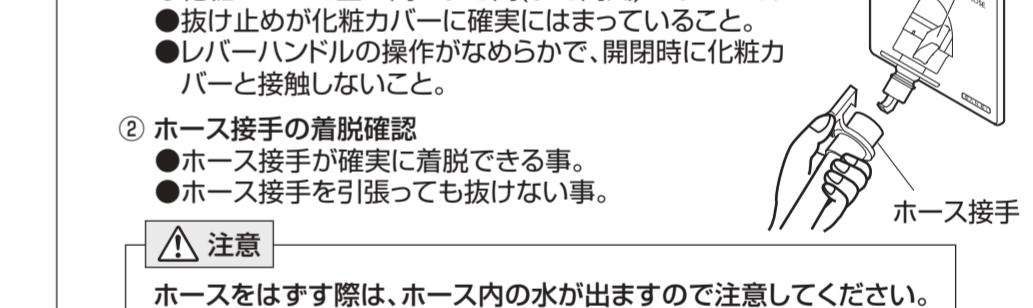
取付完了後、ホース接手を接続してから元栓を開いて通水し、作動および各接合部の水漏れ点検をしてください。

## ① 施工確認

- 化粧カバーと壁の間にすき間(すき間風)がないこと。
- 抜け止めが化粧カバーに確実にはまっていること。
- レバーハンドルの操作がなめらかで、開閉時に化粧カバーと接触しないこと。

## ② ホース接手の着脱確認

- ホース接手が確実に着脱できる事。
- ホース接手を引張っても抜けない事。



## △ 注意

- ホースをはずす際は、ホース内の水が出ますので注意してください。

点検不具合	処置	原因・対策
化粧カバーがきれいにはまらない。	a b	配管や固定金具を壁面に対して平行に施工していないため、固定金具が歪んで取付けられています。 → 壁面と固定金具、配管を平行に取付けてください。参照:「施工手順2」
化粧カバーと壁との間にすき間がある。	a b	壁(ボード)厚が適合していない。 → 壁厚9.5mm

## 取扱説明書

ご使用の前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。

※ 本製品は、寒冷地仕様ではありません。

■お客様へ……お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。  
■工時店様へ……施工後、この説明書をお客様へお渡しください。

## 本製品について 各部の名称

※ 各部の名称については、施工説明書「各部の名称」を参照ください。

## ご使用について ご使用に関する安全上の注意

●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。

いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## △警告

△注意 小さいお子様だけのご使用は、避けてください。  
けがをするおそれがあります。△注意 製品に強い力や衝撃を与えないでください。  
故障や水漏れの原因になります。△注意 ニップルに直接ホースを接続して使用しないでください。  
ホース接続部より漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれ  
があります。△注意 製品に水や洗剤、汚水をかけないでください。  
水などが浸入して家財などを濡らす財産損害発生のおそれ  
があります。△注意 分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。  
器具が破損しきがをしたり、水漏れで家財などを濡らす財産損  
害発生のおそれがあります。△注意 吐水口先端に重いものを下げる、力をかけて回したりしない  
でください。  
部品の破損や、摩耗、変形などで部品の寿命が短くなり、吐水時  
に接合部から水がにじみ出るおそれがあります。△注意 ホース接続部より水漏れがないかご確認ください。  
水漏れが発生した場合は、再度取付けをやり直してください。  
水が吹出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。△注意 レバーハンドルは、ゆっくり操作してください。  
レバーハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、水漏れ  
で家財などを濡らす財産損傷発生のおそれがあります。△注意 レバーハンドルは定期的に動かしてください。  
その際必ず給水ホースを接続してください。  
レバーハンドルを長時間動かさずに入ると水あかなど  
が付着し、無理に回そうとすると破損の原因になります。△注意 長期間使用しない時は、配管中の元栓を  
閉めてください。  
水漏れなどの事故の原因になります。△注意 洗濯機などを使用しない時は、レバーハンドルを閉めてください。  
ホース接手がはずれて水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生  
のおそれがあります。△注意 ホース接手をはず際は、レバーハンドルを止水位置に合わせ  
てからはずしてください。  
水が吹出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあり  
ます。△注意 ホース接手をはず際は、ホース接手内の水  
が噴出するおそれがあります。  
特にホース接手内に圧力がかかる場合  
は、ホース接手内に圧力がかかることがあります。  
洗濯機などを取付ける場合は、一旦、作動  
(給水スタート)して、ホース接手内の圧力を逃  
がしてから、ホース接手をはずしてください。△注意 ホースを接続するまでレバーハンドルを開けないでください。  
本製品の自動ストップ機能は緊急用です。  
安全装置が動かなくなってしまって給水ホースが取り付けられ  
なくなる場合は、安全装置を復帰してください。  
参考：「故障？ その前に」処置C△注意 凍結が予想される場所でご使用になる場合は、  
凍結予防を確実に実施してください。  
凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生  
のおそれがあります。